

Safety

Stakeholder  
Communication

社会との  
かかわり

健全な  
経営

環境への  
配慮

安全の

環境への  
配慮

Corporate governance

確保

社会との  
かかわり

健全な  
経営

Environment-  
friendly 安全の確保

環境  
への  
配慮

CSR  
REPORT  
2016



健全な  
経営  
Environment-  
friendly

Corporate  
governance

Stakeholder  
Communication

環境への  
配慮

安全の  
確保

社会との  
かかわり

Environment- 健全な経営

friendly Corporate governance

SAFETY

Stakeholder Communication

# Contents

SBSグループの経営戦略	P3-4
SBSグループのCSR	P5-6
トップメッセージ	P7-8
特集1 外国人も活躍する職場づくり	P9-10
特集2 ステークホルダーに信頼される企業を目指して	P11-12
安全の確保	P13-15
環境への配慮	P16-18
社会とのかかわり	P19-21
健全な経営	P22-23
第三者意見	P24
CSRデータ2015	P25-26



## 編集方針

SBSグループでは、ステークホルダーの皆様にSBSグループのCSR活動をご理解いただくためのコミュニケーションツールとして、CSRレポートを毎年発行しています。

本レポートでは、SBSグループのCSR（経営理念や経営戦略との関わり）、社会的課題解決へ向けた活動（安全への取り組み・環境への配慮）、ガバナンス（健全な経営）、ステークホルダーコミュニケーション（社会とのかかわり）をご理解いただくことを目指しております。

また、様々な方にお読みいただけるように、「わかりやすさ」を第一に編集することを心がけております。

ご一読いただき、SBSグループのCSRをご理解いただければ幸いです。

## 報告内容について

### 【報告対象範囲】

#### ■ 国内連結子会社（16社）

- ・SBSロジコム（株）
- ・SBSロジコム南関東（株）
- ・SBSフレイトサービス（株）
- ・SBSロジコム北関東（株）
- ・日本レコードセンター（株）
- ・SBSフレックネット（株）
- ・SBSトランスポート（株）
- ・SBSゼンツウ（株）
- ・SBSグローバルネットワーク（株）
- ・SBS即配サポート（株）
- ・SBSフレック（株）
- ・SBSスタッフ（株）
- ・SBSアセットマネジメント（株）
- ・SBSファイナンス（株）
- ・マーケティングパートナー（株）
- ・（株）エルマックス

#### ■ 公益財団法人

- ・SBS鎌田財団

\* 海外グループは報告対象範囲に含まれておりません。

### 【報告対象期間】

2015年4月1日～2016年3月31日

ただし、一部2016年6月までの情報を含みます。

### 【情報開示について】

SBSグループのウェブサイトでは「CSR」の他、最新の情報を逐次発信しております。本レポートに掲載されていない情報の他、IRに関する情報も網羅的に掲載されております。

<http://www.sbs-group.co.jp/>

### 【信頼性の向上】

本レポートに掲載の各種活動を始めとする全体の内容について、有識者からご意見をいただき、P24に掲載しています。

## グループ概要

### 【会社概要】

社 名/SBSホールディングス株式会社  
代表取締役社長/鎌田 正彦  
創 立/1987年12月16日  
資 本 金/39億2,075万円  
売 上 高/1,579億円(連結)※2015年12月31日  
所 在 地/〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3

事 業 内 容/物流事業、不動産事業、マーケティング事業、  
人材事業 他

### 【グループデータ】

拠 点 数/国内約330拠点(物流施設約160拠点)  
倉庫面積/約30万坪(自社保有10万坪)  
車 両 数/約3,700台(庸車5,000台/月)  
従業員数/14,191名(内正社員 5,555名)

### SBSグループ各社 事業内容

#### 【国内グループ/物流事業】

##### SBSロジコム(株)

事業内容 国内・国際物流から3PL事業まで総合物流事業を展開

##### SBSフレイトサービス(株)

事業内容 東北から関西まで広域物流、海上コンテナ、  
物流センター運営

##### 日本レコードセンター(株)

事業内容 音楽・映像媒体や通販商品などの小口多頻度物流

##### SBSトランスポート(株)

事業内容 東京・神奈川の地域物流、引越・移転、センター運営

##### SBSグローバルネットワーク(株)

事業内容 通関、フォワーダーなど輸出入・国際物流業務

##### SBSフレック(株)

事業内容 3温度帯(ドライ・チルド・フローズン)の食品全国物流

##### SBSフレックネット(株)

事業内容 全国の3温度帯食品物流

##### SBSゼンツウ(株)

事業内容 3温度帯食品・青果物の物流、会員宅への個別配送事業

##### SBS即配サポート(株)

事業内容 1都3県の企業間即日配送事業

#### 【国内グループ/物流支援事業】

##### SBSスタッフ(株)

事業内容 人材派遣、職業紹介、倉庫内・工場内作業請負

##### SBS即配サポート(株)

事業内容 産業廃棄物中間処理事業・店舗アクリル什器物流と  
一部製造事業

##### SBSファイナンス(株)

事業内容 車両リース、燃料・タイヤ販売、各種保険販売

##### SBSアセットマネジメント(株)

事業内容 物流施設開発・賃貸事業

##### マーケティングパートナー(株)

事業内容 ダイレクトマーケティングの企画・設計・運用・通販事業

#### 【海外グループ/物流事業】

##### SBS Logistics Singapore Pte. Ltd.

事業内容 アジア地域における事業の統括およびシンガポールに  
おける物流事業

##### SBS Logistics Holdings Hong Kong Ltd.

事業内容 中国事業に関する持株会社

##### SBS Logistics Hong Kong Ltd.

事業内容 香港地域における物流事業

##### SBS Total Logistics Malaysia Sdn. Bhd.

事業内容 マレーシアにおける物流事業

##### SBS Logistics Philippines, Inc.

事業内容 フィリピンにおける物流事業

##### SBS Logistics(Thailand)Co., Ltd.

事業内容 タイにおける物流事業

##### TAS Logistics Co., Ltd.(Thailand)

事業内容 タイにおける物流施設開発および運営

##### SBS Logistics Vietnam Co., Ltd.

事業内容 ベトナムにおける物流事業

##### Atlas Logistics Pvt. Ltd.(India)

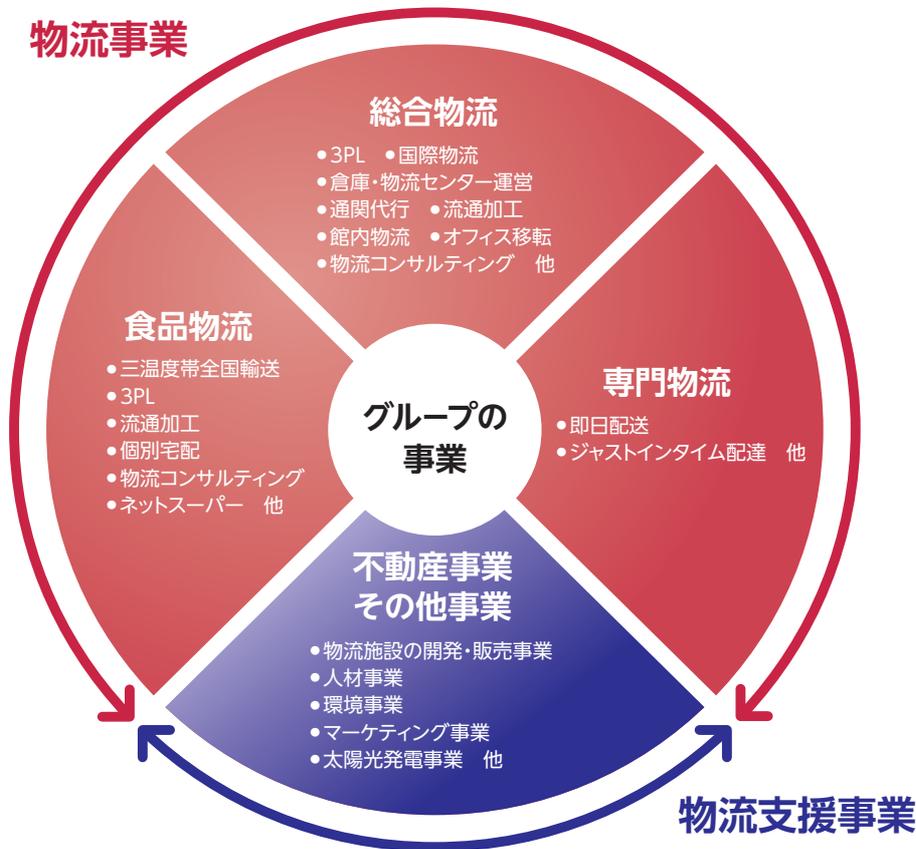
事業内容 インドの国際物流会社、フォワーディング、  
プロジェクトカーゴ

# SBSグループの経営戦略

2014年度から開始した4か年の中期経営計画「SBS Growth 2017」に基づき、事業戦略や投資戦略などにグループ一丸となって取り組んでいます。



## 物流事業



## ビジネスハイライト2015

### 業績

■ 当期の業績

● 売上高	<b>1,579億円</b>
● 営業利益	<b>53億円</b>
● 経常利益	<b>57億円</b>
● 当期純利益	<b>△38億円</b>
● 1株当たり配当金	<b>0円</b>

### その他事業

3.8%  
5,963百万円(前年比91.1%)  
(人材、環境事業、マーケティング、太陽光発電事業 他)

### 不動産事業

5.4%  
8,641百万円(前年比169.3%)

### 売上の構成

### 物流事業

90.8%  
143,391百万円  
(前年比110.4%)

主力の物流事業に物流支援事業を加え、付加価値の高い物流サービスを提供

## 中期経営計画「SBS Growth 2017」

中期経営数値目標:平成29年(2017年)12月期目標

売上高 2,000億円

### ■ 当社グループが目指す姿

“全方位の物流機能を有する3PL企業集団”を結成し、日本国内に留まることなくアジアを代表する物流企業として業界トップグループ入りを目指す

### ■ 中期経営方針

- お客様に選ばれる現場力を磨く
- グループ力を結集する
- ベンチャースピリット集団であり続ける
- 持続的な成長を果たす
- コンプライアンス、CSRを重視する経営を貫く

### ■ 2016年グループ方針

#### 1. 3PL事業の更なる強化

提案営業力を一層磨き、新規顧客の獲得と既存顧客の深耕を図る。

#### 2. 物流不動産開発の推進

“金融とロジスティクスの融合ビジネスモデル”を進化、拡大する。

#### 3. 海外展開の推進

インド、ASEANにおいて、日本品質の3PLビジネスを展開する。

#### 4. M&Aの積極化

グループ規模と機能を拡充するパートナーの発掘、獲得を目指す。

#### 5. 営業力とSBSブランド力の強化

お客様から選ばれ、人々が働きたい企業グループになる。

## 2015年12月期の経営状況

厳しい経営環境のなか、海外子会社が寄与したことや国内物流事業が拡大したことで、売上高は前期比で増加。燃料価格の低下、料金改定効果、為替利益の影響などから営業利益も大幅に増加しました。一方、連結子会社トランスポール社に対するすべての投資を損失処理したことにより、当期純利益はマイナスに転じました。

## 2016年12月期の業績予想

トランスポール社からの撤退により、海外事業における売上面では大きく縮小しますが、利益面ではのれんの償却負担が大幅に減少することでプラス効果になります。また、国内においては、物流事業、不動産事業ともに当期を上回る好調な業績を見込んでおります。これらの状況から当社グループの2016年12月業績は、V字回復するものと考えております。

### 2016年12月期の連結業績予想



### ■ セグメント別

	物流	不動産	その他	調整後合計
売上高	129,950	10,350	6,200	146,500
前年比	△9.4%	19.8%	4.0%	△7.3%
営業利益	1,530	5,070	300	6,600 (調整差額△300)
前年比	△26.2%	54.0%	26.1%	23.4%
営業利益率	1.2%	49.0%	4.8%	4.5%

(単位:百万円)

## TOPICS

### ドライバー採用強化に向け、専門子会社が始動

5月

SBSロジコムは、業容拡大に伴い、トラックの輸送能力を大幅に高めるため「SBSロジコム南関東」および「SBSロジコム北関東」の2社を新設。トラックドライバーを正社員として雇用、人事制度を整備するなどして人材確保を進めています。



### フィリピンでコンテナ輸送事業を開始

8月

フィリピンの有力フォワーダーである Sky Freight Forwarders Inc. を中核とする De Guzman Group と合併で、物流会社 SBS Logistics Philippines, Inc. を設立。コンテナ輸送(ドレージ)事業を開始しました。



### 高級ワインの輸入から配送までを一括受託

11月

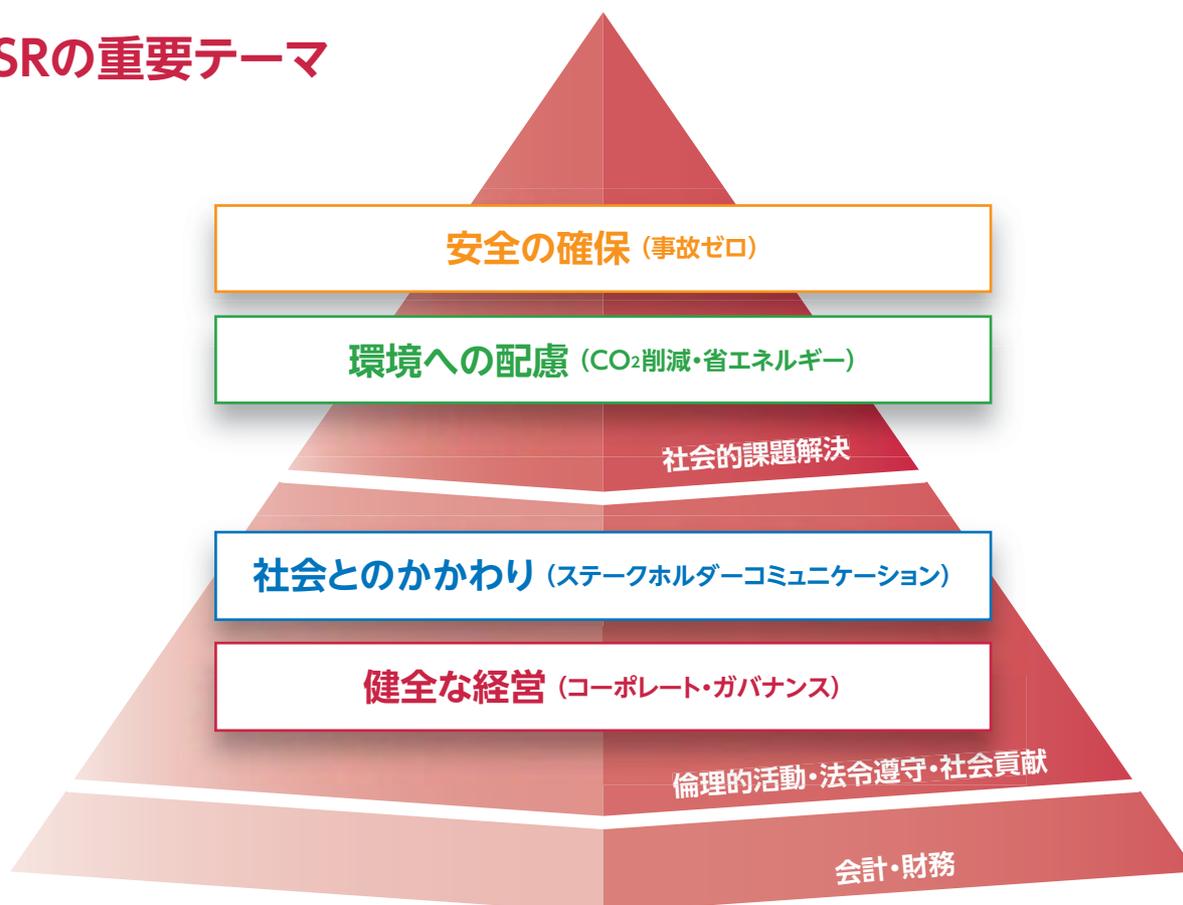
ワイン物流事業を本格的に開始。ワイン専用拠点を開設し、高級ワインの国際輸送手配から通関、保管、流通加工、レストラン・小売店へのリーファー配送までフランストップでご提供しています。



# SBSグループのCSR

SBSグループのCSRは、経営理念と行動基準からなるSBSグループ行動憲章に基づいています。SBSグループがよき企業市民であり続けるために、この経営理念を事業を通じて実現し、社会に貢献することこそが私たちのCSRであると考えています。

## CSRの重要テーマ



## SBSグループ行動憲章

### 経営理念

われわれの提案するサービスによって、  
お客様に喜ばれ、株主に喜ばれ、  
そして社員の幸せにつながる会社を目指す。

企業の永遠の繁栄は、人を大事にすることにある。  
みなが生き生きと働くことが繁栄をもたらす。

社会的責任なくして企業の発展はあり得ない。  
社会と共に生き、人々に喜ばれ、  
広く内外社会の発展に貢献する。

### 行動基準

- 1 コーポレート・ガバナンスの推進
- 2 お客様第一主義
- 3 公正で透明性のある企業活動
- 4 社会貢献と環境への配慮
- 5 法令・規程の遵守
- 6 働きがいのある職場づくり

中期経営方針:コンプライアンス、CSRを重視する経営を貫く

■ 安全の確保(事故ゼロ)

13ページで紹介

運輸安全推進会議

- ▶ 運輸安全マネジメント
- ▶ 安全意識の徹底
- ▶ 安全対策の強化

- 安全運転研修会
- デジタコ・ドラレコ
- ドライバーコンテスト
- 物流品質セミナー
- ヒヤリハット集
- Gマーク認定

■ 環境への配慮(CO<sub>2</sub>削減・省エネルギー)

16ページで紹介

環境対策検討会議

- ▶ エコドライブ(車両)
- ▶ 省エネ(施設)
- ▶ 環境行動(社員)

- エコドライブ
- 省エネ照明導入
- モーダルシフト
- 再生可能エネルギー創出
- 環境配慮型車両
- 半径5mの環境行動

■ 社会とのかかわり(ステークホルダーコミュニケーション)

19ページで紹介

安全衛生委員会

SBS鎌田財団

- ▶ 人材育成
- ▶ 労働安全衛生
- ▶ 社会貢献
- ▶ 品質管理

- グループ統一研修
- 産業医カウンセリング
- 通信教育制度
- 社会貢献表彰
- 安全衛生委員会
- 助成事業

■ 健全な経営(コーポレート・ガバナンス)

22ページで紹介

コンプライアンス会議

リスク管理会議

情報セキュリティ  
推進会議

- ▶ 内部統制
- ▶ 内部通報窓口
- ▶ コンプライアンス教育
- ▶ リスクマネジメント
- ▶ 情報セキュリティ対策

- コンプライアンスツール  
(カード・マニュアル・ルールブック・ルールビデオ等)
- 職場なんでも相談室、監査役ホットライン、  
社外通報窓口
- 事業継続計画(BCP)
- 情報セキュリティセミナー

CSRへの取り組み姿勢

SBSグループはCSRの重要テーマとして、4つの課題を掲げています。運輸業の義務である「安全の確保」を最重要課題とし、「環境への配慮」とともに社会的課題解決責任への取り組み課題に位置付けています。法的・倫理的責任への取り組み課題には「健全な経営」「社会とのかかわり」の二つを据え、コーポレート・ガバナンスとステークホルダーコミュニケーションの推進を図っています。これら4つの課題毎に推進組織を設け、活動の推進と情報の収集・共有を図っています。また、これらの組織を統括する「CSR推進委員会」があり、グループ横断組織としてCSR活動の推進を行っています。

組織体制



## トップメッセージ

# 事業戦略とCSR経営の一体的推進で 信頼される物流企業を目指します。

### ■ 事業を通じ、課題解決に取り組む

世の中では、グローバル化やデジタル化がより進むと同時に、経済・社会・環境など様々な問題が複雑に絡み合い、持続可能性への課題となっています。われわれSBSグループを取り巻く事業環境も目まぐるしく変化し続けていますが、事業を通じて課題解決に取り組んでいきます。

さて、2015年度の日本経済は、企業収益が改善に向かい緩やかな景気回復傾向が見えつつも、秋ごろから中国をはじめとする新興国の経済減速懸念や海外政情不安により、株式・為替相場が大きく変動するなど、先行きの景況感に不透明さが出てまいりました。

### ■ より働きやすい環境の整備

物流業界においては、インターネット通販による個人物流量の拡大や物流に関する業務を一括して受託する3PL化の流れが一層進んでいることで、個人・法人部門とも業務領域は拡大していますが、一方では、依然、慢性的な人材不足が深刻化しており、物流機能の安定的供給を阻害する要因となっています。

このような状況の中、SBSグループでは、ドライバーの人材確保・育成に注力した会社をグループ内に設立した他、全社的にコンプライアンス啓発推進を展開し、より働きやすい職場環境の整備を進めているところであります。

今年度は、来年を最終年度とする中期経営計画「SBS Growth 2017」の着地を見据えた仕上げの年であります。重点方針として掲げる3PL強化のための事業基盤構築（国内で7拠点、約50,000坪の新設）を進めるとともに、同じく本中期計画に掲げておりますCSR経営の推進を進めてまいります。



## ■ SBSグループのCSR4つの課題

さて、「SBS Growth 2017」ではCSR重点課題として

- ①作業の安全確保や交通事故の防止などの安全対策を推進
- ②環境アクションプランを柱に車両や施設からの環境負荷軽減
- ③コンプライアンスの徹底と事業を通じた社会貢献への取り組みを掲げておりますが、その取り組み状況をSBSグループのCSR4つの課題ごとに振り返ってまいります。

### 「安全の確保」

昨年度より、「原点に立ち返った基本の実践」を最大テーマに、各種安全教育を進めてまいりました。2015年度は重大事故0件となりましたが、完全なる事故ゼロ達成に向け、本年度の安全スローガンのとおり「基本動作の積み重ね」を更に徹底いたします。また、本年度は、SBSグループドライバーコンテストの本開催を実施いたします。運転技術向上と安全運転意識再確認の重要な場として大いに盛り上げたいと考えております。

### 「環境への配慮」

中期環境計画「環境アクションプラン2017」の達成に向けて、車両関連では、エコ安全ドライブ推進を徹底しております。これまで毎年燃費向上が認められており、エコ安全ドライブの浸透を実感しております。また施設関連では、新設拠点・大型拠点を中心に省電力化を進めております。地球温暖化が進行する中、運輸部門においても二酸化炭素排出抑制に更なる努力が求められております。この社会的要請に応えられるよう今後も取り組みを進めてまいります。

### 「社会とのかかわり」

公道を利用する者の模範となるよう交通安全活動を継続的に行っているほか、SBSグループ社会貢献表彰制度を新設するなど社会貢献活動の活性化を図っております。また、新たにスタートさせた公益財団法人の物流研究助成事業には定員を上回るご応募をいただきました。今後もこの助成事業を通じ、少しでも社会に貢献できれば幸いです。



### 「健全な経営」

コーポレート・ガバナンス強化を進める中で、特にコンプライアンスの徹底に努めてまいりました。新たな啓発ツールとしてコンプライアンスルールブックとコンプライアンスルールビデオを制作したほか、社員教育のための研修、教材、ツールを見直し、社内の隅々に規則を守る意識を徹底させ、働きやすい職場環境作りを努めてまいりました。

## ■ 信頼される物流企業を目指す

私たちSBSグループは、事業戦略とCSR経営の推進により、ステークホルダーに安全・安心を届け、信頼される物流企業を目指してまいります。

本レポートは、ステークホルダーの皆様へSBSグループのCSR活動をよりご理解いただくために制作しております。是非、ご一読いただきたいと思います。

SBSグループ代表

鎌田正彦

社会との  
かかわり

特1集

# 外国人も活躍する職場づくり

～第三国定住難民受け入れから社内に広がる効用～

SBSゼンツウ(株)習志野営業所では、2015年にミャンマーからの難民を雇用しました。それまでは外国人がいない物流拠点でしたが、言葉の通じない外国人を初めて受け入れて、わずか1年あまりのうちに職場環境は大きく変わりました。



## 難民受け入れの経緯と準備

習志野営業所が、ミャンマーからの難民4名を雇用した背景には、何か特別な企業方針があったわけではありませんでした。

2015年初頭、新たに150名規模の従業員を必要とする事業が決まったため人員募集の広告を出したところ、アジア福祉教育財団から難民応募に関する問い合わせがありました。日本語の通じない外国人で、しかも深刻な背景事情がある「難民」を受け入れることに戸惑いはありましたが、同財団難民事業本部からの協力態勢を得ることでSBSゼンツウ本社は難民の雇用受け入れを決定。佐藤所長がこの営業所に着任したのはそんな頃でした。

### 本人から一言



#### ■ エータン

周りの皆さんが優しく教えてくれるのでうれしいです。今の仕事にとても満足していて、ずっと続けたいと思っています。

日本語を使えない外国人たちに働いてもらうために何を準備すればいいのか、難民という事情は業務に影響しないか、所長として配慮すべき課題はいくつかありました。まず、職場での偏見を避けるため、新規採用したこの外国人たちの紹介と研修期間情報や難民についての解説をA3用紙に記載して、「みなさん声かけて仲良くしていきましょう」と目につく場所に掲示しました。

半年間の研修期間中のうち1カ月は財団派遣の通訳が付き添い、作業全般にわたって随時フォローしてもらいながら進めました。また、万一の場合に「あぶない!」の注意喚起が通じないスタッフであることが識別できるように、一般従業員とは色違いの帽子を研修期間中は着用してもらいました。

### 本人から一言



#### ■ ラウィン

職場では日本人の友達も20人ほどできました。休憩中にはみんなでいろいろ喋っています。

## 異なる出自にこだわらず、その想いに寄り添うこと

厳しい事情を抱える難民の方々に対して、安易な採用の仕方では失礼です。その人達の想いに寄り添い、一緒に前へ進んでいく姿勢が大事だろうと思います。働く人の国籍が異なることは業務にまったく関係ないですね。難民だって同じ。一緒の環境でうまく働くためにはどうしたら良いのかをこちらが考えて、その実現に努めるのが私の役割だと思っています。

SBSゼンツウ(株)物流加工部門 第一物流加工部 部長代理兼  
習志野営業所 所長  
佐藤 英樹



Interview

## 気遣わない配慮

結局、「外国人難民」への気遣わりは杞憂でした。日本人従業員には偏見や差別などは生まれず、むしろその身上への思いやりからすぐに受け入れられたのでした。佐藤所長は当初、相互理解のツールとして翻訳ハンドブックの手作りも検討したものの、日本の職場で働くのだからと割り切り、周りの従業員にも日本語だけで教えるようにと指示しました。特別気遣わないほうが当人たちのためと考えたのです。また、退職時の日本語挨拶をお願いすれば、間を置かずにそれが習慣となりました。face to face の声かけができずなが深まり、毎日のささいな変化も分かるようになるのです。

主な持ち場はピッキングライン。流れてくる荷箱に担当する商品を入れていく作業で、数字が読めれば対応できます。就業1年程度なので日本語の読み書きにはまだ難がありますが、同僚が話す日本語への理解はかなり進んできています。

仕事には日本人よりも真面目に取り組めます。指示された作業はとにかく根気強くやり通して、手を抜くようなことが一切ありません。指導担当のベテラン女性社員も「あの一生懸命さには本当に頭が下がります」と評するほど。そうした姿は、職場全体にも大きなメリットをもたらしているようです。

### 本人から一言



#### エドットウ

別の場所で6カ月間の研修を終了し、こちらに来て2カ月になります。まだたまに間違えることもありますが、仕事はすごく楽しいです。

### 本人から一言



#### チーチーポー

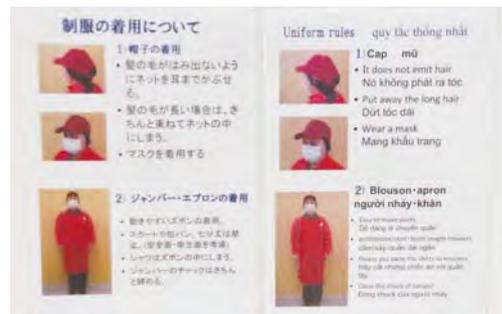
日本語を教えてくれる仲間が何人もきて、いろいろ教えてもらえるので、すごく助かっています。

## 職場環境が一気にグローバル化

難民の雇用受け入れが思いのほか順調に推移したこともあり、習志野営業所ではその後の外国人採用が一気に進みました。わずか1年足らずのうちに、ベトナム人留学生約30名などを含め全従業員の20%を、10カ国以上の外国人が占めるまでとなりました。さらに5名の障がい者も勤務するグローバルな営業所は、「ここで働いている人はみな同じ社員」(佐藤所長)という意識が先に浸透しているので、異なる国々の人々との職場環境での差別意識や不平不満は生じないようです。

この職場で働く外国人たちは、当初は日本語がほとんど使えないケースも少なくありません。それでも、業務に必要な言葉がさほど多くないこともあって、作業に馴染むのにあまり時間はかかりません。彼らの勤務状況は思いのほか良好で、勤勉さでも周りの日本人にひけをとらず一生懸命です。そして難民に限らず、未永くこの職場で働き続けたいと考える外国人労働者も少なくないのです。留学生の場合は修学条件等によって2年間で離職しますが、この職場の情報が伝わっているせいか、入れ替わりで途切れることなく新しい留学生が入ってきています。

習志野営業所は現在の従業員態勢で落ち着いていますが、そのグローバルな職場環境の効用は高く評価されています。SBSゼンツウ本体としては今後も、難民を含む外国人雇用を検討していくことになるでしょう。



外国人にも理解できるように写真付で3カ国語で作成されたマニュアル

## 難民を理解しようする積極的な姿勢が、良い成果につながっています

難民雇用の受け入れをお願いする企業様は、あらかじめその体制や難民への理解度などで選んでいます。SBSゼンツウ様ならうまく受け入れていただけると判断してお願いしました。実際に研修期間の段階から、こちらの営業所では想像以上に積極的な取り組みを実施していただき、難民自身も満足の良い成果となっています。本当にありがたく思っています。

Interview

アジア福祉教育財団難民事業本部  
RHQ支援センター  
職業相談員 添田 朗氏



健全な経営  
特2集

# ステークホルダーに信頼される 企業を目指して

社会の趨勢として近年強く問われるようになったコーポレート・ガバナンス。SBSグループにおいてもその維持構築に注力しています。ここでは、そのコーポレート・ガバナンスを支えるコンプライアンスと事業継続への取り組みをレポートします。

## ■ コンプライアンスマインドの浸透に向けて

### グループとしての体制づくり

物流関連業界でも昨今は法令遵守が常識となりつつあります。SBSグループでは、30社超の全従業員に向けてコンプライアンスの周知徹底を図り、実効力のある取り組みを業界に先駆けて展開しています。2007年から活動を開始した「SBSグループコンプライアンス会議」では、関連の各種計画策定から実施状況までを追跡。その評価結果をグループ全社で情報共有し、さらに徹底したコンプライアンスの実施へとつなげています。

### 管理者からの浸透を目指す研修

グループ内へのコンプライアンス啓発活動は、新入社員研修から実施します。既存従業員への取り組みでは、グループ各社の総務部長相当へのコンプライアンス研修を実施し、その知見によって徐々に企業内の下部管理者や一般従業員へと理解が浸透することを目指してきました。SBSグループ階層別研修では、コンプライアンス教育を必須項目として実施しています。また、現場の管理・監督者を全国から召集する集中研修も始まっており、今秋には第2回目の開催を予定しています。

### 伝える管理者の意識も高める 各種情報ツール

SBSグループではコンプライアンス周知のための各種オリジナルツールも制作しています。2011年に作った「コンプライアンス・マニュアル」は本年1月に改訂し、イラスト付きで具体的な事例を紹介した補足資料を追加しました。全従業員に理解しやすい内容を目指し、グループ各社の新入社員研修時に手渡されます。月1回発行の「コンプライアンス通信」はすでに3年以上継続しており、毎回担当者がコンプライアンス関連の多様な情報を取材し記事にまとめています。以前は各拠点へのメール配信が中心でしたが、昨年のグループウェア導入により、世界中の従業員が手軽に閲覧できる配信環境が整いました。今年初制作の「パワハラ防止ポスター」は、現場リーダーや管理者が「自分の業務は大丈夫か」と内省するきっかけとなるよう、4



パワハラ防止ポスター

### 各種の情報ツールが企業内コンプライアンスの意識を変える

企業内におけるコンプライアンス問題の大半は、ハラスメント関連の出来事です。SBSグループでは、社内でのハラスメント撲滅を重点課題としており、全従業員に向けた意識調査アンケートの実施や、業務上の多様な悩みに対応する4種類の相談窓口も開設しています。また「コンプライアンス・ルールブック」にもハラスメント防止事項を掲げており、全員必携の「コンプライアンス・カード」にはその相談・通報先を明記しています。本年3月から配布・上映している各種ツールの成果として、「職場何でも相談室」には前年比2倍程度の相談が寄せられています。これは、新たなツールをきっかけに相談しようと思いつつ従業員が増えたものと分析し、情報ツール提供による望ましい徴候と捉えており、これを契機に健全な職場運営が定着していくことを期待しています。

Interview



SBSホールディングス(株)  
CSR推進部  
課長 平林 秀明

月から各事業所で掲示されています。「コンプライアンス・ルールブック」や「コンプライアンス・ルールビデオ」も今年初めて制作しました。ブックは全従業員配布型の情報ツールで、最少限の事柄に絞った職場での基本ルールとそのチェックリストを分かりやすくまとめています。

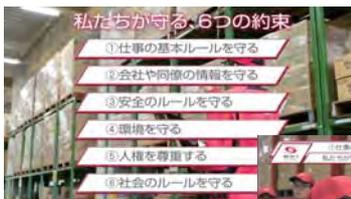
特にビデオは、各社各事業所のすべての新人社員・中途採用者・パート・アルバイトに向けた新しい試みのコンプライアンス啓蒙ツールです。昨今ではSNS等で業務関連情報を流出させるような、企業の信頼に関わる不祥事がさまざまな業界で発生しており、そうしたリスクを予防するためには、速やかに浸透する啓蒙ツールが必要でした。ビデオという啓蒙アプローチは分かりやすく、多人数が一括して、比較的短時間に内容をしっかり把握できるのが特長です。制作にあたっては、まずアンケート等から現場の事例を吸い上げて内容を検討し、実態に即した分かりやすいコンテンツを10分間程度にまとめており、多くの体験者から「非常に分かりやすい」と評価されています。



本社での研修会には約300名が参加



コンプライアンス・ルールブック



コンプライアンス・ルールビデオ



## ■ 事業継続計画確立に向けて

### BCPを新たなフェーズへ

SBSグループにおけるBCPのこれまでの取り組みは、車両用インタングの設置やバッテリー活用など、被災した地域の物流拠点をいかに業務継続させるかが主眼でした。これが、2014年度からはより包括的なBCPへ向けて新たなフェーズに進み始めています。各事業拠点への対策は従来どおりながら、有事の際はまずグループ間の情報ネットワークを確保し、情報集約・指揮命令系統の維持を最優先します。これを基盤にグループ全体の観点で物資や人員を最適に融通し合うことで、よりフレキシブルでスピーディーな事業継続の実現を目指すアプローチです。

本年7月に実施したSBSグループの災害訓練では、対策本部と各本社に配置したトランシーバーで開始宣言を送信、各拠点の従業員が一斉に応えるところから始めました。また非常用電源による基幹業務の遂行や、緊急時連絡網の運用、BCP用の各種機器が正常に動作することの確認等を順次行いました。



SBSホールディングス(株)  
CSR推進部  
次長 新津 真一郎



#### トランシーバー

輻射率の低いIP回線を使ったトランシーバーは、キーパーソンとの連絡や各種同報連絡等に対応。



#### 災害カード

グループ全従業員必携の災害カードには、緊急時の行動や連絡網の基本情報が記されています。

### 相互理解の社内コンプライアンスと、グループ視点のBCP

SBSグループでは、今年度、管理・監督者に対して、ハラスメントのない職場作りに向けた意識強化に努めています。管理者は、「従業員との対話により相互理解の機会を増やす」ことに意欲的に取り組んでもらいたいと考えています。そうした対話の機会によって、社内の人間関係の活性化、職場環境の改善につながることを期待しています。

BCPについては、まだ取り組みがスタートしたばかりです。グループ各社の人員・車両・諸々の資材を自在に活用するまでには多くの課題が残っています。まずは、グループ基幹の情報ネットワークも活用し、情報の集約・伝達、指揮命令系統がスムーズに行えることを優先的に進めてきました。グループ各社の独自の対応に加えて、SBSグループとしての視点に立って効率的な対応が取れるよう、地道な取り組みが必要です。

Summary



SBSホールディングス(株)  
CSR推進部  
部長 大北 伸司

# 安全の確保

物流事業を主力とするSBSグループにとって安全・無事故は絶対に果たさなければならない最重要課題です。安全に対する意識を常に見直しながら、事故防止に取り組めます。

## 2015年度 重大事故

# 0件

### ■ 2015グループ運輸安全 主な取り組み (\*各社個別の取り組みは除く)



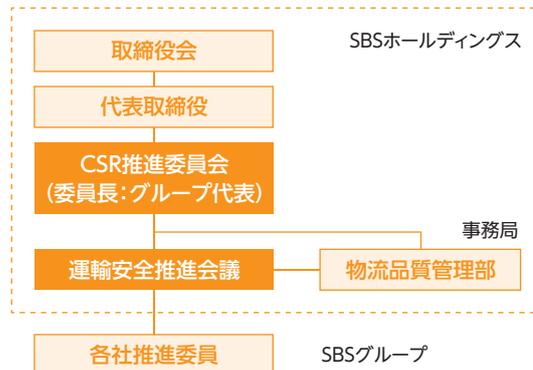
## 運輸安全マネジメント

### ■ グループの運輸安全推進体制

グループの運輸安全強化を図るため、グループ各社の推進委員で構成する「SBSグループ運輸安全推進会議」を設置し、事故の防止対策、安全教育などの企画推進および運輸安全に係る様々な情報の共有を図っています。



### SBSグループ運輸安全マネジメント体制図



## 安全意識の徹底

### ■ 安全教育

SBSグループではドライバー、庫内作業員、運行管理者、実務管理者など、それぞれの役割に応じたさまざまな安全教育を定期的に行っています。また、グループ各社においても個々に教育を展開することで運輸安全の維持向上を図っています。

#### グループ安全教育の2015年度実績

※各社個別の教育は除きます 注) KYT:危険予知トレーニング

安全運転研修会(運転技能・KYT):ドライバー	4回
エコ・安全ドライブ研修(エコドライブ・KYT・健康管理・CSR): ドライバー、運行管理者	4回
フォークリフト安全運転研修会(運転技能・KYT):庫内作業員	4回
物流品質セミナー(運輸安全・労務管理・安全衛生): 運行管理者、実務管理者	4回
運行管理者向け一般適性診断活用講座(適性診断):運行管理者	4回

### ■ 意識啓発

SBSグループでは、ドライブレコーダーに記録されたヒヤリハット映像を収集・分析し、さまざまなケースに対応して事例をストック。ドライバー・運行管理者向けのKYT(危険予知トレーニング)に利用している他、その他教材としても幅広い活用を行っています。



Pick Up!

### 平成28年度 SBSグループ安全スローガン

毎年、グループ「安全スローガン」をグループ従業員の応募作品の中から決定します。今年度の作品は4,896件の中から選ばれました。

平成28年度 SBSグループ [安全スローガン]

SBS GROUP

**事故ゼロは  
基本動作の 積み重ね**

#### 最優秀賞 受賞者 SBSホールディングス 法務部 木村由香莉

私は、法務部で契約書のチェック業務に従事しています。例えば、契約書の内容に不備があることによって法的なリスクや不利益が生じます。この「事故」を防ぐには、契約の目的・内容に応じた最低限の必要事項は何かを知っていなければなりません。つまり「基本」が大事なのです。

ドライバーには、お客様の荷物を決められたスケジュールで無事にお届けする責任があります。私のようにデスクに向かいある程度時間に余裕を持ちながら考えることなどできません。そのような状況下でも無事故であるためには、「基本」を「知っている」だけでは足りず、それを常に意識し実践できるようにするための、日々の「積み重ね」が必要だと考えたのです。

私は運送業務に従事したことはありません。ですが、物流会社の一員として、ドライバーの無事を願う気持ちは、みな同じだと思います。そんな思いを込めてこのスローガンを贈ります。



## 安全対策の強化

### ■ 安全運転管理

SBSグループでは、安全意識の向上と安全運転管理の徹底を図るために「デジタルタコグラフ」と「ドライブレコーダー」の導入を推進しています。また、上記運行支援関連機器以外にも衝突回避支援や走路逸脱防止など、安全運行に係る最新技術情報を共有し、車両導入時の参考にするなど安全対策強化に努めています。

- ◎デジタルタコメーター装着台数 ..... 1,631台  
(アナログタコメーター装着台数 ..... 1,532台)
- ◎ドライブレコーダー装着台数 ..... 1,967台
- ◎バックアイカメラ装着台数 ..... 2,545台

### ■ 健康管理

健康起因事故を防止するため、ドライバーの健康管理をより一層徹底しています。2015年度は健康診断と二次検診のフォローに加え、SBSグループ全ドライバーに対する一斉SAS(睡眠時無呼吸症候群)スクリーニング検査を実施しました。また、昨年度から展開していたSBSグループ全事業所への「血圧計」設置を完了し、点呼時の血圧測定を開始しました。

### 2015年度 SASスクリーニング検査実績

# 3,500人

(グループ全ドライバー) \* 庸車先は除く

## 点呼時血圧測定グループ 全事業所で開始

### ■ 安全衛生管理

「安全衛生管理チェックリスト」を全事業所に配布し、年3回の自己点検を実施している他、監査部門による「業務監査」と合わせて運輸安全管理部門による「巡回フォロー」を行っており、適正な管理の維持に努めています。また、グループ統一の「交通安全運動」「労働安全衛生運動」を2016年度秋から展開することが決定しています。



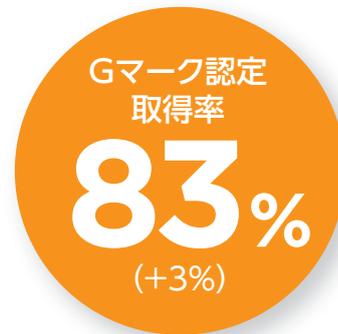
### ■ 技術向上

技術と意識の向上、および社内交流の活性化にも有効な「ドライバーコンテスト」。2015年9月にプレ大会を開催。2016年11月13日(日)には第一回SBSグループドライバーコンテストの開催が決定しました。



### ■ 信頼性

各事業所の安全管理体制適正化と信頼性アップを目的にグループを挙げてGマーク取得を推進しています。2015年度は前年までに認定の107事業所から116事業所に増加。取得率は83%に達しました。



安全性優良事業所(Gマーク認定事業所)は、国土交通省から全国貨物自動車運送適正化事業実施機関に指定されている(公社)全日本トラック協会がトラック運送会社の安全性を事業所単位で評価し、広く公表する制度です。

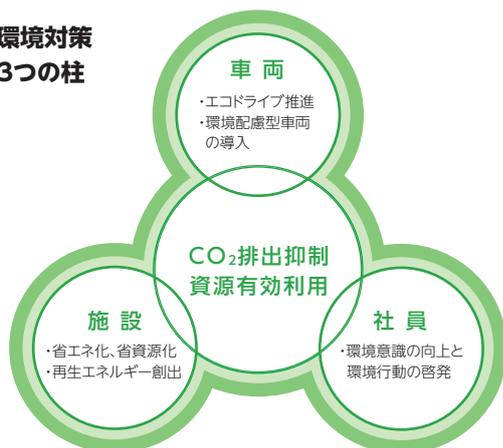
# 環境への配慮

地球温暖化など環境問題が深刻化する中、企業活動における環境への配慮は非常に重要な経営課題です。  
SBSグループでは主力事業である物流を中心に環境負荷の軽減に取り組み、地球環境の保全に貢献してまいります。

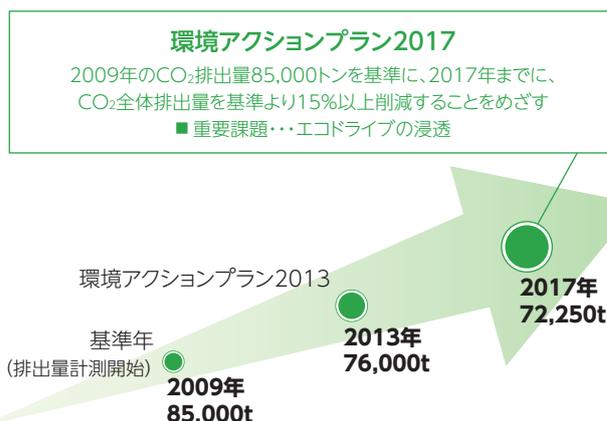
## SBSグループの環境負荷軽減の考え方

SBSグループでは、環境への配慮を企業経営の重要課題のひとつと捉え、「車両」「施設」「社員」の3つの経営資源に着目、「環境対策3つの柱」としてそれぞれの取り組みを推進しています。また、中期環境計画「環境アクションプラン（2011年より実施、現在は第二期）」を掲げ、グループ全体でCO<sub>2</sub>排出削減に取り組んでおります。

### ■ 環境対策 3つの柱



### ■ 環境アクションプラン



## 環境マネジメント

### SBSグループ環境方針

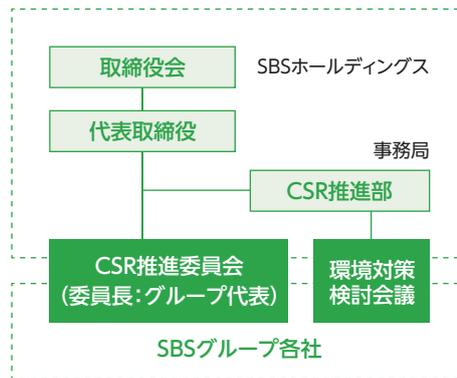
#### 基本理念

SBSグループは、環境問題が地球的規模を持つと共に、次世代以降においても重要な問題であるとの認識を堅持いたします。社会的責任を全うした健全な事業活動を通じ、経済と環境が両立する持続可能な循環型社会構築の一助となるよう努力いたします。

#### 基本方針

1. 資源・エネルギーの有限性を認識した上で、有効活用に努めてまいります。
2. 廃棄物の発生抑制・再利用・リサイクルおよび適正処理を実施いたします。
3. 国内外の環境関連法規を遵守いたします。また、グループ各社は同意した協定等を遵守いたします。
4. 環境教育・啓発活動を通じて全社員が本方針を周知徹底、実践いたします。
5. 直面した環境問題に対し、グループ各社の垣根なく、能動的かつ機動的に対応してまいります。

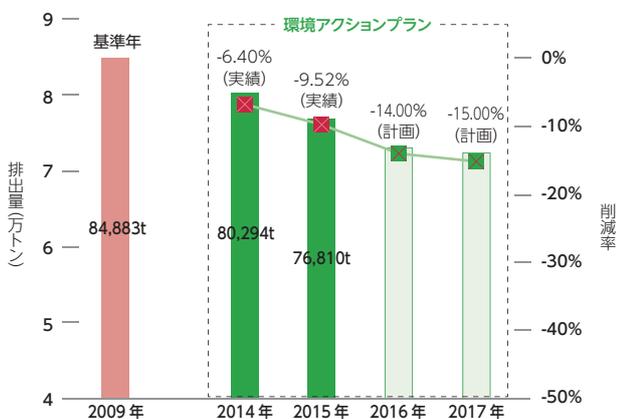
### SBSグループ環境マネジメント体制図



## 2015年度CO<sub>2</sub>全体排出量

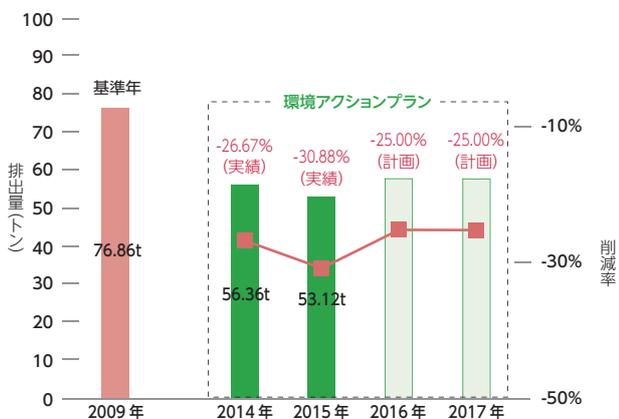
2015年度のCO<sub>2</sub>全体排出量は環境アクションプラン基準年(2009年)比-9.52%(前年比-4.3%)という結果になりました。年々事業規模が拡大する中、全体排出量によるアクションプラン達成(2017年に基準年比-15%)は厳しい状況となりつつありますが、売上高(1億円)あたり排出原単位においては基準年比-25%以上を維持しており、当グループの環境対策が機能しているものと評価しています。

### ■ 全体排出量



2015年度全体排出量  
**76,810t** (車両:59,463t、施設:17,347t)

### ■ 売上高(1億円)あたり排出量



2015年度売上高(1億円)あたり排出量  
**53.12t** (2009年比:-30.88%削減)

## 「車両」の取り組み

日々3,000台以上の車両を走らせているSBSグループにとって、車両からのCO<sub>2</sub>排出量は、年間全体排出量の約80%に及びます。その排出量削減の取り組みの軸となるのがエコドライブ(省燃費走行)です。SBSグループでは、エコドライブの浸透を教習(エコ・安全ドライブ研修:グループで実施しているエコドライブ教習。これまで1,000人以上が受講)と実地(手書き燃費記録:乗務員が“給油量”“走行距離”“燃費”を自ら手書きで記録することにより、自分の走り把握することで、省燃費走行への意識向上を図る)の二軸で推進することで、より深いエコドライブの浸透を図っています。

エコドライブ受講生

(2015年12月末現在)

**1,252人**

\*上記人数に、グループ各社個別の研修実績は含まれておりません。

Pick Up!

### 東京都貨物輸送評価制度

2015年は  
SBSトランスポートが  
評価を獲得!

\*評価は、エコドライブ教育の充実ぶり、ドライバーと運行管理者の二人三脚による日々の燃費確認と向上努力、さらに燃費記録の集計・分析の精度などの運営力、そして平均燃費の優劣で行われ、評価獲得が非常に難しいとされる。



## 「施設」の取り組み

既存の大型センターと新規センターを中心にした省電力照明(LED・無電極ランプなど)導入など、各種節電対策による施設の省電力化を推進しています。

### ■ 省エネ&事業継続機能を備えたセンター

新杉田物流センター

延べ床面積:38,252㎡(11,571坪)

全館LED照明

太陽光発電:年間発電量(予測)

111万1千kWh

非常用発電装置(72時間連続運転、

燃料補給ありの場合)



Pick Up!

もう一つの省エネ蛍光灯 (CCFL) を導入

SBS即配サポート横浜事業所では、リサイクルセンターと処理後選別作業ラインエリアの蛍光灯の経年劣化に伴い、LED照明より機能が進化し近年注目されているCCFL照明(144基)を導入しました。



\*CCFL (Cold Cathode Fluorescent Lamp)

冷陰極蛍光管照明。フィラメントでの加熱なしで熱電子を放出させるタイプの蛍光灯。パソコンのモニターや液晶テレビのバックライト等に40年来利用されてきた信頼性の高い光源。一般的なLED照明と同等の寿命と省電力機能があり、経済性に優れており、加えてLED照明よりも柔らかく自然光に近い安定した光を発する。

「社員」の取り組み

従業員には、環境行動を身近に感じ実践できるよう「半径5mの環境行動」を4年前から推奨しています。毎年、COOL BIZを開始する5月にポスターを作成し、グループ全社全事業所に掲示し啓蒙しています。



資源循環サポート

SBSグループでは資源循環もサポート可能です。SBS即配サポートは廃棄物やゴミの収集・運搬を専門とした静脈物流事業を行っています。中間処理工場も自社で保有しており、廃棄物の分別、解体、破碎、圧縮および再び素材、原料に戻す再生資源製造が可能です。素材として再利用できないものは工業原料やエネルギーとして活用するなど徹底したリサイクルを行うことが特徴であり、ゼロ・エミッションの実現に向けて日夜取り組んでいます。

資源循環サポート (SBS即配サポート)

中間処理工場を2拠点保有。廃棄物の運搬、解体、分別、破碎、圧縮および資源の再資源化活動



【保有設備】

50tトラックスケール、破碎機、圧縮機、溶融機  
フロンガス回収装置、磁気記録媒体破壊装置、  
物理破壊装置  
※ISO14001、ISO27001

再生可能エネルギー創出

芝山太陽光発電所をはじめ、グループ全12カ所で再生可能エネルギーを創出。合計発電量(推定)は約878万kWhで年間約3,000t以上のCO<sub>2</sub>排出抑制に寄与しています。



Pick Up!

モーダルシフト

SBSグループではモーダルシフトにも対応しています。モーダルシフトは環境負荷低減のみならず、ドライバー不足にも対応する社会貢献の輸送手段です。



鉄道輸送貨物量  
2015年度

231,285t

国土交通省物流審議官表彰を合同受賞 SBSロジコム 通運営業部

第14回グリーン物流パートナーシップ会議(平成27年12月15日)において、SBSロジコムが国土交通省物流審議官表彰を合同受賞しました。これは、酒類販売を全国展開する「株式会社やまや」が、その商流に係る物流7事業者と「やまや商流モーダルシフト推進協議会」を組織し、九州・離島に数多く点在する焼酎メーカーと「やまや」の各物流拠点までの搬路のモーダル化を推進。その結果、集約物流による大幅なCO<sub>2</sub>排出削減を達成したという取り組みが評価されたもの。SBSロジコム(通運営業部)は、搬路の一部を担当するとともに推進協議会のメンバーとして当事業に貢献しました。同会議においてSBSグループ初の受賞です。



# 社会とのかかわり

私たちSBSグループは、社会を構成する一員として、  
ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切にし、  
社会との調和を図り、安心と信頼の関係構築に  
努めてまいります。

## コミュニケーション

### ■ ウェブサイトコミュニケーション

2015年度はSBSロジコム、SBSフレックなどグループ6社がウェブサイト进行全面リニューアルしました。新ウェブサイトは、ワイド画面やプルダウンナビゲーションを採用し、情報の表示を増やすと同時に、少ないクリック数で目的の情報にたどり着けるように配慮しました。また、マルチ言語対応の自動翻訳機能を装備し、情報を海外からもご覧いただけるようになりました。リニューアルしたデザインや機能は、SBSグループの標準版として各社サイトに展開していく予定です。



#### SBSグループコーポレートサイト閲覧数

訪問者数: **811,968件** (188,720件)

ページビュー: **2,536,315件** (574,392件)

\* ( ) 内はSBSホールディングス(株)

### ■ IRコミュニケーション

SBSホールディングス(株)は、情報開示ポリシーに従い、法令・規則で定められた情報を適時・適切に開示するのはもちろん、それ以外の情報についても積極的な情報開示に努めています。ウェブサイトにも株主・投資家の皆様向け情報のコーナーを設け、経営方針・戦略、財務・業績情報をはじめとする各種情報を掲載しています。また、機関投資家向け説明会で使用した資料も掲載するなど、公平な情報開示に努めています。



活動内容	当社出席者	開催回数	延べ出席者数・対応件数
決算説明会	社長、常務、財務担当役員、IR・広報部長	2回/年	96名
投資家・アナリスト対応	IR・広報部長、IR・広報部員、その他	随時	133件

### ■ お客様とのコミュニケーション

3PL事業の更なる拡大を目指すSBSロジコムが、顧客接点拡大の一環としてお客様向け広報誌「LOGILINK」を創刊しました(2016年3月現在第3号発行)。同誌は、企業や団体、官公庁において物流に関わる責任者、担当者様向けに物流のソリューション事例や最新情報など役立つ情報をわかりやすく発信いたします。



### ■ 従業員とのコミュニケーション

SBSグループでは、社内報やグループウェアなど、さまざまな媒体を活用し、従業員とのコミュニケーションを図っています。

#### ■ SBSグループ全従業員向け発行媒体(発行部門)

「グループ報SBS Express」  
季刊誌(IR・広報部)

「CSR News」  
月刊(CSR推進部)

「コンプライアンス通信」  
月刊(CSR推進部)



### ■ メディアコミュニケーション

IR・広報部が、さまざまなマスメディアに対してコミュニケーションを図ることで、説明責任の一端を担っています。

プレスリリース件数

**66件**

## 社会貢献活動

### 交通安全活動

SBSグループは、公道を利用するトラック事業者として、交通安全の模範にならないといけないと考えています。安全・安心な交通社会の実現を願い、地域の警察署・交通安全協会・トラック協会が実施する交通安全活動に積極的に協賛・協力していきます。



Pick Up!

### 社会貢献表彰制度

SBSグループは、平成27年度から「社会貢献表彰」を創設いたしました。この表彰は、グループの社会貢献振興に寄与した活動を称え、従業員の社会貢献意識の醸成と活動の活性化を図るものです。



### 受賞概要

#### 地域社会との交流

(日本レコードセンター株式会社)

地元自治会および近隣企業の人々を迎えて「ドイツ式パワーウォーキング講習」・「子どものための絵手紙教室」などのイベントを開催し、地域社会との積極的な交流を図りました。



#### エコ通勤認証取得

(SBS ロジコム株式会社 戸田橋支店・君津支店)

環境認証(ISO14001)を15年間保持し続ける環境優良事業所である両支店が、事業外の環境行動推進を目的にエコ通勤に取り組み、「エコ通勤認証」\*を取得しました。



#### エコドライブ啓発

(SBSロジコム株式会社 吉川支店)

事故防止と環境負荷低減への理解促進を目的に、普通運転免許を保持する全従業員にエコドライブ講習を実施しました。なお、この活動はエコドライブ啓発の優良事例として埼玉県HPにも掲載されています。



#### 動物愛護支援への取り組み

(マーケティングパートナー株式会社)

コーズマーケティング(寄附付商品の販売による売上金の一部を支援団体に寄付)を主体に、ペットの殺処分ゼロを目指す活動への積極的な協賛・協力を展開しました。



\*「エコ通勤認証」は、エコ通勤に関する意識が高く、取り組みを自主的かつ積極的に推進している事業所を優良事業所として認証・登録する、国土交通省が開始した制度です。

## 公益財団法人SBS鎌田財団

### ■ ロゴマーク



### ■ 設立の趣意

物流はこれまで経済社会の構造変化と共に進歩してきました。近年ではネット通販の発展等、多様化する消費者ニーズに応えるべくサービスの高度化を果たしています。

しかしながら、サービス品質が向上する一方で、旧来から効率化という根本的課題を抱え続けています。物流の効率化は、物流に直接携わる関係者にとってはもちろんのこと、企業、一般消費者にとっても重要な課題であります。また、輸送の安全確保も重要課題の一つです。社会に安全・安心を与えるためには、事故のない輸送を実現しなければなりません。そして、もう一つの課題が環境負荷の低減です。物流分野はこれまで大幅なCO<sub>2</sub>排出量削減を実現しているものの、昨今の地球温暖化の状況から、更なる努力を続けなければなりません。

これらの課題解決には、学際的な研究が継続的に行われる必要があります。当財団は、物流の学術研究を支援することで、あらゆる産業にかかわりを持ち経済や生活に不可欠な社会インフラである物流の進化を促し、産業全体の競争力強化と国民生活の向上に寄与することを目的に設立したものであります。

平成27年度は以下の研究が助成対象に決定いたしました。

	所属機関名	職位	氏名	研究課題
1	福島大学 共生システム理工学類	准教授	川崎 興太	除染廃棄物の安全かつ効率的な輸送のあり方に関する研究
2	名古屋工業大学 都市社会工学科	助教	Wisetjindawat Wisinee	救援物資の梱包形態の調査及び 梱包モデル確立による、支援物資が引き起こす 混乱防止に関する研究
3	流通経済大学 流通情報学部	教授	矢野 裕児	地方部における中長距離輸送ネットワーク構築に 関する研究
4	関西学院大学 商学部	教授	伊藤 秀和	自動車部品調達のロジスティクス： 日本と欧州の国際比較分析
5	城西大学 経営学部	准教授	上村 聖	ピッキング作業における生産性向上のための 要因分析及び改善策に関する研究
6	神戸大学大学院 海事科学研究科	准教授	松本 秀暢	我が国における国際コンテナ貨物港湾の競争力 強化に向けた戦略的研究 - 荷主の輸送経路 選択行動と船社の港湾選択からの政策提言 -

### ■ 事業内容

この法人は、次の各号に掲げる事業を行う。

- ① 物流の振興・発展に資する学術研究に対する助成
- ② 物流の振興・発展に資する研究集会、シンポジウム、セミナー等の開催に対する助成
- ③ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### ■ 助成の対象となる研究について

- ① 物流分野の振興・発展に資する学術研究\*
- ② 同分野における研究集会、シンポジウム、セミナーなどの開催

※学術研究のテーマの例としては、物流の効率化を進める取り組み・貨物輸送の安全向上を図る取り組み・物流の仕組みの改善を通じて地球環境負荷の低減(CO<sub>2</sub>排出の削減)を図る取り組み等が挙げられます。

### ■ 助成の対象者

大学・大学院・その他研究機関に在籍し、物流分野に係る研究活動に従事する個人または団体を対象とします。

### ■ 助成する金額

年間総額 300万円 ※1件あたり50万円を上限とします。

詳細は公益財団法人SBS鎌田財団HPをご覧ください。 <http://www.sbs-kamataidan.or.jp/>

# 健全な経営

SBSグループは、健全な経営を目指し、コーポレート・ガバナンス(企業統治)の強化を通じて経営の迅速化と効率化を図り、健全性・透明性を確保し続けることで、信頼される企業としてステークホルダーの期待に応えていきます。

## SBSグループのコーポレート・ガバナンス

SBSグループは、法令遵守はもとより社会規範や倫理に従い、公正で透明度の高い経営体制により事業展開をしていく上で、一人ひとりが守るべき行動基準として「SBSグループ行動憲章」を定めるとともに、ステークホルダーの皆様に対する経営の透明性および効率性の確保、ならびに企業倫理に基づく事業活動およびコンプライアンス経営の実践を基本的な考えとし、経営体制を整えています。

### ■ 経営体制

SBSホールディングス(株)の取締役会は6名で構成しており、2016年度より社外取締役を2名とし、経営の透明性と客観性の確保に努めています。また、監査役会は監査役3名、うち社外監査役2名で構成しており、取締役会から独立した組織としてグループ会社を含めた取締役の業務執行に関する監査を実施しています。

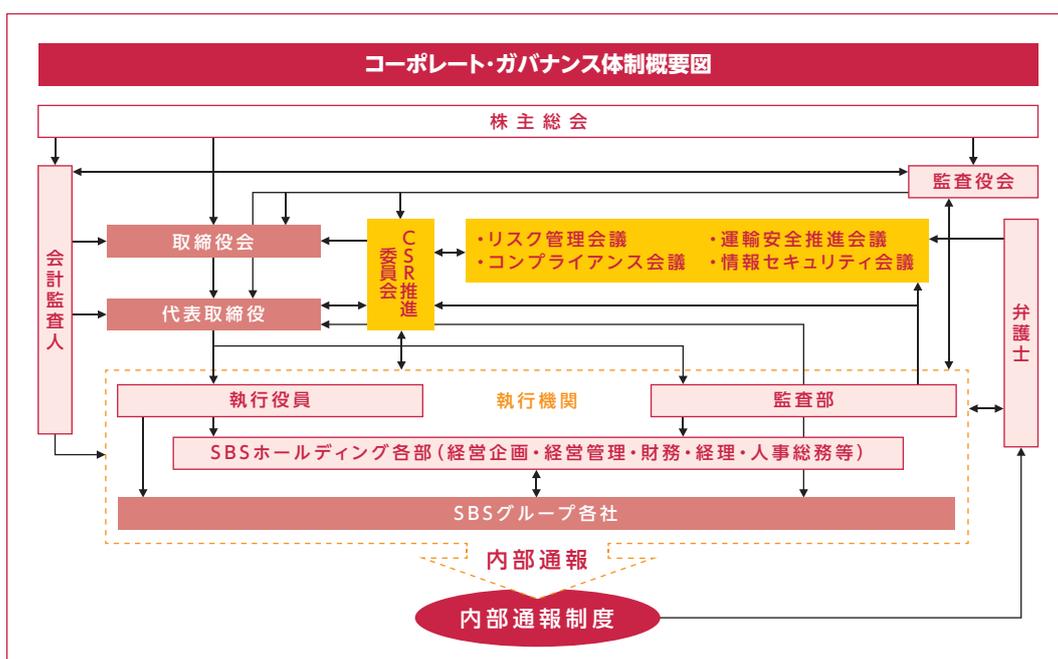
務局を設置し、内部統制の構築、推進に努めています。統制評価においては、毎年、リスクの再評価および対象範囲の見直しを行い、内部統制の整備・運用と効率的な評価の推進を図っています。SBSグループでは今後も継続して内部統制の改善を図り、財務報告の信頼性確保に努めます。

平成27年度  
財務報告に係る内部統制評価

有効

### ■ 内部統制システムの整備

「内部統制の基本方針」を策定するとともに、内部統制推進事



## ■ コンプライアンス

### 〈マネジメント〉

「SBSグループ行動憲章」および「SBSグループコンプライアンス規程」ならびに「SBSグループコンプライアンスマニュアル」を定め、コンプライアンスの体制整備とその推進に取り組んでいます。また「SBSグループコンプライアンスマニュアル」をはじめとする各種ツールをグループ全社員に配布、徹底することで、公正で透明度の高い経営の推進に努めています。

### 〈意識向上の取り組み〉

役員および社員に対し、定期的な研修と情報発信を行うことで、コンプライアンス意識向上を図っています。

### 〈相談・通報窓口の設置〉

グループ社員が職場環境や業務上での問題を気軽に相談できる相談窓口、およびコンプライアンス上の問題を通報できる窓口を設置、運用しています。

### 〈反社会的勢力の排除〉

「反社会的勢力への対応に関する基本方針」「SBSグループ反社会的勢力対策規程」および「SBSグループコンプライアンスマニュアル」にその事項を定め、社員への教育および周知・徹底を図っています。

## ■ リスクマネジメント

### 〈グループリスク管理〉

「SBSリスク管理規程」を定め、経営活動の脅威となり得るすべての事象についてリスク管理の徹底を図っています。リスク管理システムを維持、運営するため、「リスク管理会議」を設置。グループ



各社のリスク対策状況のモニタリングを実施し、リスク発生の未然防止に努めています。※特集ページにはBCP推進状況を記載

### 〈情報セキュリティ〉

「SBSグループ情報セキュリティ基本方針」「SBSグループ情報セキュリティポリシー」を定め、情報セキュリティの維持・向上に取り組んでいます。また、推進機関である「情報セキュリティ推進会議」が各社の対策状況のモニタリングと教育・啓発の推進を行い、セキュリティレベルの堅持に努めています。



Pick Up!

## 第30期定時株主総会

SBSホールディングスは、2016年3月25日に第30期(平成27年1月1日～平成27年12月31日)定時株主総会を開催し、付議した5つの議案が決議されました。

### 【決議事項】

- 第1号議案 資本準備金の額の減少および剰余金の処分の件
- 第2号議案 定款一部変更の件
- 第3号議案 取締役6名選任の件
- 第4号議案 監査役3名選任の件
- 第5号議案 補欠監査役1名選任の件



## 第三者意見

関西大学社会安全学部 教授  
中村 隆宏

### プロフィール

専門は、安全に関するヒューマンエラー・ヒューマンファクターズ。

1998年大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得後、退学。(独)労働安全衛生総合研究所(旧産業安全研究所)主任研究員を経て、2010年関西大学社会安全学部に着任。教壇に立つたつたわら、産業現場を中心に研究活動に取り組む。



周知の通り、我が国では世界でも類を見ない超高齢社会が進展しており、少子化と相まって、これまで通りの経済成長を維持するにもマンパワーは不足している。更なる発展を目指す上では、何らかの形で国外から労働力を受け入れることも避けられない局面を迎えるだろう。その場合、国内の労働市場に及ぼす影響も懸念材料の一つだが、国民性や文化の違い、言語の壁といった問題の方が、むしろ最前線の現場においては深刻である。SBSゼンツウ(株)習志野営業所における「外国人も活躍する職場づくり」は、今後、多くの企業が直面するこれらの課題に対し、積極的かつ包括的に、極めて優れたバランスで取り組んだ好事例である。国際社会への貢献という観点からも、今後の展開を注視したい。

また、組織の成長に伴い、多くの場合、「当事者意識の希薄化」といった問題を抱えることになる。業務の拡大に伴い専門化・分業化が進んだ結果、関心の対象は眼前の業務のみ、となりがちなためである。組織の社会的位置づけと役割を踏まえ全体を捉えようとする視点を失えば、その組織力はたちまち衰え始め、個々人の能力も十分に活かされない状態に陥る。重要なのは、組織が掲げる目標や目的とともに組織が直面する課題をも、「他人事」ではなく「当事者」として捉えることができるかどうかであり、そのための「仕掛け」を

豊富に提供できるかどうか組織力向上のカギとなる。「半径5mの環境行動」は、広く一般にも定着しているCOOL BIZを拡張した環境問題への取り組みであるが、視点を変えれば、全社的な課題に対し、身近なところから手の届く範囲で、一人ひとりの実践・実行を促そうとするものである。さらに、「交通事故の防止」や「環境負荷低減」に関する取り組みでは、ドライバーのみを対象とすることが通例であるが、「エコドライブ啓発(SBSロジコム吉川支店)」では、ドライバーに限らず免許を持つ全従業員を対象とし、地元自治体との連携も相まって、末端にまで届くワイドレンジな取り組みを実現した。

このように、SBSグループのCSRに関わる諸課題において、組織の隅々にまでSBSマインドが浸透し、具体的かつ実践的に展開されている点は、率直に評価したい。ただし、これらの取り組みや活動をはじめ、多くの場合は、一般的に成果がどの程度“ある”かが評価基準となるのに対し、最重要課題の一つである「安全」に関しては、事故やトラブルが“ない”ことが基準であることに留意する必要がある。単に、評価のモノサシの+と-を入れ替えた程度では、取り組みや活動を“行うこと”自体が目的となってしまう場合もある。目新しさを追究することばかりが重要ではなく継続性も必要だが、時には、評価の妥当性を再検討した上で、更なる展開へと視野を広げることも忘れてはならない。

## 編集後記

「SBSグループ CSR Report 2016」をご覧いただき、ありがとうございました。

はじめに、昨年に引き続き第三者意見を頂戴しました関西大学中村先生に、心より御礼申し上げます。

さて、今年(2016年)は11月にグループ全体の開催としては初めてのドライバーコンテスト(以下「ドラコン」という)を開催します。ドラコンは日頃の安全教育の成果を競技という形で再確認する場であると同時に、選手と上司、選手と選手、それ以外の参加者の交友も含め多面的な交流を生み出す場として期待しています。また、中村先生のご意見にありました「評価の妥当性を検証」する場としても有効だと考えます。このドラコンを含め、これからもさまざまな「仕掛け」を展開していくことで「当事者」を増殖させ、CSRの推進力に繋がればと思います。

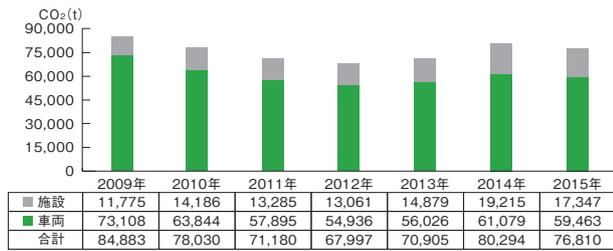
最後に、昨年から特集記事と第三者意見の掲載を開始し、今年も若干ながらIR情報を含む新たな情報を追加しました。この「進化」を「充実」へと発展させるべく、今後も取り組んでまいりますので、ステークホルダーの皆様には、これからも引き続き本報告書を通じてSBSグループについての理解を深めていただければ幸いです。

SBSホールディングス株式会社 CSR推進部

# CSRデータ 2015

## 【環境への配慮】

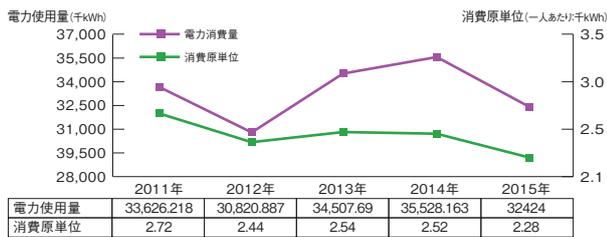
### ■ CO<sub>2</sub>排出量実績推移



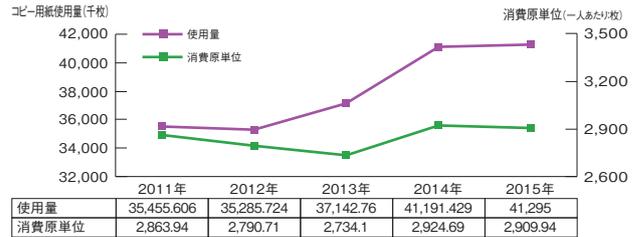
### ■ 水資源消費量と原単位



### ■ 電力消費量と原単位



### ■ コピー用紙消費量と原単位



### ■ 環境配慮型車両導入数

(単位:台)

新長期規制適合車	2001
ハイブリッド車	65
CNG車	67
LPG車	518
(低公害車合計)	2651

グループ全車両から排出される大気汚染原因物質排出状況

### ■ 環境関連認証取得状況

認証	会社名(取得数)	合計
ISO14001 (環境マネジメントシステム)	SBSロジコム(4)、SBSフレック(8)、 SBSフレイトサービス(17)、 SBSゼンツウ(5)、SBS即配サポート(2)	36
グリーン経営認証	SBSロジコム(2)、SBSフレック(3)、 SBSトランスポート(3)	8
東京都貨物輸送評価制度	SBSトランスポート(☆☆)	1
GPN認証 (グリーン購入ネットワーク)	SBSロジコム ※「エコ商品ネット」の輸送サービスに認定	1

### ■ 環境投資

(単位:百万円)

投資項目	内容	2012	2013	2014	2015
車両関連投資	CNG、LPG、ハイブリッド、重量車燃費基準達成車など	1,267	1,886	2,960	2,830
	燃費改善(エコ・安全ドライブ研修など)	2	2	2	2
施設省エネ化などに伴う投資	デマンド監視・省電力照明等	4	1	141	72
地球環境保全投資	太陽光発電等	1,382	1,248	629	223
環境マネジメント	環境マネジメント登録・管理活動等	-	2	3	3
環境コミュニケーション	社内外への啓発・報告資料作成等	3	3	4	5
合計		2,658	3,142	3,739	3,135

## 再生可能エネルギー送出量

施設名	推定発電量/年(kWh)	施設名	推定発電量/年(kWh)
芝山太陽光発電所	3,065,419	吉川支店	267,624
芝山第二太陽光発電所	852,432	高崎営業所	193,284
野田吉春物流センター	557,546	小田原支店	252,000
千曲物流センター	599,387	京田辺物流センター	612,109
川越物流センター	848,260	長津田物流センター	950,438
君津支店	322,140	豊橋物流センター	265,320
合計:8,785,959			

## SBS即配サポート静脈物流取扱量

(単位:t)

品目名称	全処理量(SBSグループ)
廃プラスチック類	6,151(248)
再生プラスチック	360(448)
金属くず	1,438(98)
木くず	657(124)
紙類・その他	684(83)
合計	9,290(1001)

## 【安全の確保】

### GMマーク取得状況(安全性優良事業所認定)

会社名	新規取得事業所数	既取得	GMマーク取得	GMマーク対象	GMマーク	会社名	新規取得事業所数	既取得	GMマーク取得	GMマーク対象	GMマーク
SBSゼンツウ	3	46	49	54	91%	SBSトランスポート	0	7	7	7	100%
SBSロジコム	3	24	27	32	84%	SBS即配サポート	0	6	6	9	67%
SBSフレックネット	2	14	16	22	73%	SBSグループ合計	9	107	116	139	83%
SBSフレイトサービス	1	10	11	15	73%	全国のトラック運送事業所の取得率：26.7% (平成27年12月15日現在の数値 ※全日本トラック協会HPより)					

## 【社会とのかかわり・健全な経営】

### 人材育成取り組み状況 SBSグループ研修実績(2015年度)

(単位:人数)

階層研修	部長研修	100	社会人3年目	27	テーマ別研修	中途入社	31	営業力強化ADS	14	CSR報告書を読む会	40	通信教育	357
	管理職アドバンス	20	新入社員フォローアップ	40		中途入社フォローアップ	13	OJTリーダー	19	エコ・安全ドライブ	83	eラーニング	73
	管理職基礎	27	新入社員(総合)	41		メンタルヘルス	26	アサーション	16	安全運転研修会(トラック)	65	TOEIC	2
	監督職アドバンス	19	新入社員(OJT)	14		管理・監督職物流	15	ロジカル・シンキング	19	ドライバーコンテスト(プレ)	50	ビジネスキャリア検定	21
	監督職ステップアップ	21	現場リーダー強化I	14		物流基礎研修	17	コミュニケーション	8	安全運転研修会(フォーク)	72		
	監督職基礎	25	現場リーダー強化II	17		営業力強化プレゼン	15	物流センター長	8	物流品質セミナー	503		
	中堅社員	20	現場リーダー強化III	19		営業力強化PSS	19	内定者フォローアップ	24	情報セキュリティ	162		
合計:2076名													

### 品質系認証取得状況

認証	会社名(取得数)	合計
ISO9001 (品質マネジメントシステム)	SBSフレック(31)、 SBSフレイトサービス(17)、 SBSゼンツウ(17)	65
ISO27001 (情報セキュリティマネジメントシステム)	SBSロジコム、 SBS即配サポート(2)	3
プライバシーマーク	SBSロジコム、 SBS即配サポート(2)	3
JAS有機農産物小分認証	SBSゼンツウ(2)	2
引越安心マーク	SBSトランスポート	1

### コンプライアンス相談窓口 相談件数(2015年度)\*

相談内容	件数
法令・社内ルールに関するもの	29
職場の人間関係に関するもの	20
その他	24
合計	73

\*従業員が直接相談できる社内・外に設置された窓口への合計相談数



【問い合わせ先】

SBSホールディングス株式会社 CSR推進部

〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3

TEL:03-3829-2367 FAX:03-3829-2822

<http://www.sbs-group.co.jp>



適切に管理された森林で生産された木材を使った環境配慮型のFSC認証紙を使用しています。



有害な廃液が出ない水なし印刷方式で印刷しています。



この印刷物は植物油インキを使用しています。